

県立八ヶ岳スケートセンターに係る最終評価と今後の運営の方向性(案)

最終評価と現状分析

最終評価

「八ヶ岳スケートセンターの今後のあり方に関する方針(24年度)」における改善策の検証

- 関係団体が利用者を増加させること
28年度の最終目標値18,080人を27年度18,260人、28年度18,390人で達成済み
- 指定管理料の削減が図られること
24年度以降の指定管理料を削減し実施済み(H24指定管理料は1,490千円削減)
- 引き続き、指定管理者が運営すること
26~31年度の指定管理者として山梨県体育協会が運営して達成済みの利用者数について達成状況を評価していくこと
- 県、指定管理者、北杜市、関係団体などで構成する利用促進会議を開催して、達成状況を評価して達成済み

~ 全て達成済み

現状分析

施設の利用形態

年間利用者数	24年度: 13,897人	28年度: 18,390人(32%増)
一人当たり経費	24年度: 3,614円/人	28年度: 2,781円/人(約23%減)
[利用者数多い順]		
1 個人利用	24年度: 5,463人	28年度: 6,954人(約27%増)
2 定期券利用	24年度: 3,789人	28年度: 3,800人(横ばい)
3 無料利用	24年度: 1,953人	28年度: 3,673人(約88%増)
4 貸切利用	24年度: 1,161人	28年度: 2,210人(約90%増)
5 団体利用	24年度: 1,531人	28年度: 1,753人(約15%増)

施設利用における特徴

- スケート教室による利用
- スケート教室利用者数 24年度: 1,913人 28年度: 2,040人(約7%増)
- スケート教室開催数 24年度: 20回 28年度: 24回(20%増)
- スピードスケート競技のジュニア選手育成と競技力向上
- 本施設は、国民体育大会のスピードスケート競技の得点獲得に大きく貢献している。
24~28年度 国体平均得点854.3点のうち、スピードスケート競技が平均得点90.8点(約1割)を獲得
90.8点のうち、少年男女の平均得点が43.8点であるが、ほぼ全得点(43点)を峡北地域の選手が獲得

スポーツ推進審議会の審議結果

1月16日に開催された山梨県スポーツ推進審議会において、八ヶ岳スケートセンターを平成34年度まで存続する方向で意見集約された。
また、運営の方向性について、今後、目標とする利用者数や利用料金収入などを、2月9日に開催する次回の同審議会で審議することとした。

運営の方向性

公の施設運営の考え方としては、利用の最大化とコストの最小化を図ることが必要であり、これを達成するため、新たな目標を設定

年間利用者数目標: 18,080人(H28) 21,735人(H34)

年間利用料収入目標: 約690万円(H27~28) 約950万円(H34)

次期指定管理期間中の、H32年度に利用状況を検証する。

コストを抑えた効率的な管理運営を行うため、指定管理制度による管理運営を継続

指定管理料目標: 約5,100万円(H27~28) 約4,600万円(H34)

決定までのスケジュール

11月		12月		1月		2月	
15日	第1回庁内評価委員会	17日	第1回あり方検討会開催	1日	第2回あり方検討会開催	16日	スポーツ推進審議会開催
						30日	第2回庁内評価委員会
						9日	スポーツ推進審議会開催

運営の方向性の決定